



2025年度 APT研修報告

農村地域の接続性と開発に向けたネットワーク計画の強化

一般財団法人日本ITU協会 交流推進部

日本ITU協会は、APT (The Asia-Pacific Telecommunity) の人材育成支援プログラム（日本政府の拠出金によりAPTが加盟国の実務者・技術者に向けた日本の技術・サービス等を伝える研修プログラム）として、都市部と過疎部の情報格差を解消するためのネットワーク計画を作成するスキルを修得する研修を実施している。

2025年度の研修は「農村地域の接続性と開発に向けたネットワーク計画の強化」をテーマに、12月2日から9日のうち平日の6日間で実施された。9月3日から10月2日の期間でAPTにより研修生が募集され、バングラデシュ、カンボジア、ラオス、マレーシア、モルディブ、モンゴル、ネパール、スリランカ、トンガの9か国より10名の研修生が決定した。研修生は新宿駅南口近くの「ホテルサンルートプラザ新宿」に宿泊し、隣接するビルの4階にある会議室で研修を受講した。

研修生は本研修で、発展途上国における都市部と過疎部の情報格差解消を目的として、自国の通信ネットワークの現状分析及び基礎的なネットワーク計画手法を学び、それらの知識を踏まえ、各地域に適した通信ネットワークを計画するための技能を習得した。

研修は、講義及びドリルを用いたネットワーク計画の演習で構成された。「ネットワーク計画の概要」について元日本電信電話株式会社の浜野高義氏が、「光ファイバー技術」について元富士通ソリューションズ株式会社の白石アレマン氏が、「KDDIの衛星通信への取り組みと最新動向」についてKDDI株式会社の志田裕紀氏が講義を担当した。ドリルを用いた演習は、浜野講師と白石講師が担当して実施された。

6日間の研修スケジュールは以下のとおりである。

- 1日目 午前：オリエンテーション
午後：開会セレモニー、研修生によるカントリーレポートの発表
歓迎レセプション
- 2日目 午前：日本ITU協会 小師隆専務理事による日本のカントリーレポートの発表
午後：浜野氏、白石氏、志田氏による講義
- 3日目 終日：ドリルを用いたグループ演習と発表
- 4日目 午前：NICT先端ICT技術展示を視察

午後：深大寺訪問、浜野氏によるアクションプラン・ガイダンス

5日目 午前：ドリルを用いたグループ演習
午後：ドリルを用いたグループ演習の発表、アクションプランの作成

6日目 午前：研修生によるアクションプランの発表、閉会セレモニー、お別れ昼食会

研修初日の午前中は、日本ITU協会の概要説明、研修スケジュールの共有、研修会場周辺のショートガイドツアーを含むオリエンテーションが実施された。午後の開会セレモニーでは、総務省から青野海豊氏と鈴木勝裕氏が出席し、青野氏より開会挨拶をいただいた。その後、全研修生によるカントリーレポートの発表が行われた。発表では、各国の概要に加え、電気通信及びICT技術の現状と未来のビジョン、更にアクションプランで取り上げる予定の過疎地域について説明がなされた（図2）。同日夕刻には、研修生宿泊ホテル2階の会場において、総務省の堀川亮氏を迎え、歓迎レセプションが開催された。レセプションでは、研修生が参加するゲームを企画し、研修生同士と講師との交流を深めた。

2日目の午前中は、日本のカントリーレポートとして、日本ITU協会の小師専務理事より、日本のモバイル通信の現状等に関するプレゼンテーションが行われた。午後は、浜野講師によるネットワーク計画及び無線技術、白石講師による光ファイバー技術、志田講師によるKDDIの衛星通信へ



■図1. オープニングセレモニーでの集合写真



■図2. カントリーレポートの発表



■図4. ドリルを用いたグループ・ディスカッション



■図3. 浜野講師によるネットワーク・プランニングの講義



■図5. ドリルを用いたグループ・ディスカッション後の発表

の取り組みと最新動向に関する講義が行われた。いずれの講義においても研修生から多くの質問が寄せられ、光ファイバーや非地上系のネットワークシステムへの関心の高さが見受けられた（図3）。

3日目及び5日目は、3種類の異なる地形データを用いたドリルによるグループ演習が実施された。研修生は3つのグループに分かれ、セルフスタディとグループディスカッションを行い、最終的に各チームリーダーがグループで作成した最適なネットワーク計画を発表した。チームリーダーは事務局が事前に割り当てたため、偏りなくほぼ全員がリーダーとしての役割を担う機会を作ることができた。また、プレゼンテーション後には講師からのフィードバックがあり、研修生はネットワーク計画に対する理解をさらに深めることができた（図4、図5）。5日目の午後はグループ演習に続き、講師への質疑を交えながら、研修生によるアクションプランの作成が行われた。

4日目は、日本の先端技術研究施設の視察として、国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）を訪問した。日本

標準時の生成・配信システム、航空機を用いたリモートセンシングによる地表面の観測について見学した後、展示室でBeyond 5G、多言語同時通訳、サイバーセキュリティなどの展示を見学した。研修生たちは熱心に説明に耳を傾け、特に体験型展示である「多言語同時通訳とマルチスポット再生技術」と「香り噴射装置」に高い関心を示した（図6、図7）。



■図6. NICTの日本標準時展示室の見学



■図7. NICTでの集合写真



■図8. アクションプランの発表

続いて、都内で2番目に古い寺院である調布市の深大寺を訪問し、ランチの後に周辺を散策した。約2時間程度の滞在であったが、研修生は日本の伝統的な風情を十分に堪能していた。その後、研修会場に戻り、浜野講師より、アクションプランのガイダンスが実施された。

6日目の最終日は、研修生によるアクションプランの発表が行われ、発表者と講師及び聴講者との間で活発な質疑応答が交わされた(図8)。続いて閉会セレモニーが開催され、日本ITU協会の小師専務理事より各研修生へ修了証が授与された(図9)。その後、研修生から本研修に対する評価コメントを受け、最後に日本食レストランにてお別れランチ会が実施され、日本食を楽しみながら交流が深められた。

今回も事務局は研修会場に飲み物と菓子のケータリングを用意し、研修生同士や講師、事務局とのコミュニケーションの活性化を図った。また、運営に関する事後アンケート

を任意回答で実施したところ、運営全般、研修会場、宿泊ホテル、ケータリング、講義内容などについて、回答者のほぼ全員から高い満足度が示された。さらに、アンケート結果から、研修生は5G/6Gの将来動向、生成AIモデル、無線ネットワーク伝搬、地方・遠隔地域における持続性、周波数計画、ネットワーク最適化などに強い関心を寄せていることが分かった。研修施設として希望する訪問先としては、通信事業者やICT事業者の施設、移動体通信事業者のネットワークオペレーションセンターなどが挙げられた。

最後に、本研修の実施にあたりご指導・ご協力を賜ったAPT及び総務省の皆様、講義資料の作成や研修生の指導にご尽力いただいた浜野講師、白石講師、KDDI株式会社の志田様並びに訪問対応にご協力いただいたNICTの多賀様をはじめ、関係各位に深く感謝申し上げます。



■図9. 研修修了証の授与